

鷹ノ巣の暮らし知って

民具展 しゃくし作り披露

魚 沼

魚沼市湯之谷地域の鷹ノ巣集落に伝わる民具をテーマに、解説と実演会が23日、同市七日市の湯之谷公民館で開かれた。同館の民具展示の関連行事。集落で夏場、山荘「清四郎小屋」を経営する星周一さん(83)が、工芸品のしゃくし作りを披露した。

鷹ノ巣集落は、明治末に始まった奥只見の開拓事業によって、奥只見湖の南側、福島との県境に生まれた開拓村だ。昭和30年代の奥只見ダム建設工事に伴い、他の開拓村が閉村する中、高台にあったため水没を免れた。現在は、尾瀬観光や溪流釣りの客向けに、夏季営業する山荘などが点在する。

解説実演会は、同公民館で月末まで開催中の民具展「山人の暮らし」に合わせ

て企画された。民具展には、雪かきに使った「こしき」、かんじき、みのはじめ、写真資料やクマの毛皮など約60点が並んでいる。星さんは約20人の参加者

を前に、鷹ノ巣集落での生い立ちを語ったほか、しゃくし作りの工程を実演。「消えゆく山村の生活や文化を、人々の記憶に残さなければならぬと思った」と話した。

民具展の問い合わせは同公民館、025(792)0530。



鷹ノ巣集落の工芸品のしゃくし作りを実演する星周一さん(左)＝23日、魚沼市七日市